

図書館通信

日大鶴ヶ丘高校図書館 第2号 令和2年5月発行

図書館部主任より



緊急事態宣言継続の中、過去にない**G. W.** が終わりました。世の中は、少しずつ動き始めているようです。鶴ヶ丘高校でも**Zoom**によるホームルームや授業が始まっています。各家庭で受けるホームルームはいかがでしょうか。ちょっとしたことでも記録にとっておくといいかもしれません。私達は、**世界史に残る事態**に直面しているのですから。

今回からコーナーごとに図書館内を紹介しつつ、同時にそのコーナーに置かれている**本の紹介**もしていきたいと思います。ちなみに本校では購入図書の選定を、教職員や生徒からの希望や司書の方のご意見をもとに、年3回、学期ごとに行っています。

図書館紹介…その1 「先生方のおすすめ本コーナー」

図書館に入ってすぐ右手が「**先生方のおすすめ本コーナー**」です。では早速紹介していきましょう。現在展示されている本たちです。順不同、紹介して下さった先生のお名前は省略します。

『**危機と人類 上下**』ジャレド・ダイヤモンド著 日本経済新聞出版社

『**本日は、お日柄もよく**』原田マハ 徳間文庫

『**美しき愚かものたちのタブロー**』原田マハ 文藝春秋

『**サン＝テグジュペリ 星の言葉**』齋藤孝選訳 だいわ文庫

『**新訳 星の王子さま**』サン＝テグジュペリ作・倉橋ゆみこ訳 宝島社

『**若者よ、マルクスを読もう**』内田樹 石川康宏 角川ソフィア文庫

『**「はやぶさ2」の大挑戦**』山根一眞 講談社ブルーバックス

『**十五少年漂流記**』ジュール・ヴェルヌ作・横塚光雄訳 集英社文庫

『**十五の夏 上下**』佐藤優 幻冬舎『**蜜蜂と遠雷**』恩田陸 幻冬舎

『**社会的共通資本**』宇沢弘文著 岩波新書

『**里山資本主義**』藻谷浩介 角川新書

『**動的平衡**』福岡伸一 小学館新書

『**はたらく青年**』原田宗典 角川文庫

『**蜜蜂と遠雷**』恩田陸 幻冬舎

『**容疑者Xの献身**』東野圭吾 文藝春秋

『**深夜特急1～6**』沢木耕太郎 新潮文庫

『**ゴールデンスランバー**』伊坂幸太郎 新潮文庫

『**ざんねんないきもの事典**』今泉忠明 高橋書店

『**社会を変えるには**』小熊英二 講談社現代新書

『**ハーバード日本史教室**』佐藤智恵 中公新書ラクレ

『**LEAN IN 女性、仕事、リーダーへの意欲**』シェリル・サンドバーグ作・

村井章子訳 日経ビジネス人文庫

『**四色問題**』ロビン・ウィルソン作・茂木健一郎訳 新潮文庫

『**素数の音楽**』マーカス・デュ・ソーイ作・富永星訳 新潮文庫

『**なぜ世界は存在しないのか**』マルクス・ガブリエル作・清水一浩訳 講談社新書メチエ

まだまだありますが、このへんで。絵本や図鑑、科学雑誌もあります。

本には推薦して下さった先生方の**メッセージ**がついています。学校が再開したら、ぜひメッセージにも目を留めて下さい。

今回は「**新着図書コーナー**」を紹介します。

【先生オススメコーナー】



目 読書を通して考えよう



もう少し芥川龍之介の小説『蜘蛛の糸』にこだわりたいと思います。

文学作品において、1文の解釈は、作品全体の理解の中で決定されていきます。また一方で、1文の解釈が作品理解の方向性つまり主題の理解に変更を迫ることもあります。文学における部分と全体の関係は、どちらか一方が、常にもう一方を支配するような固定した主従関係ではありません。両者のせめぎあいという**緊張関係**の中で、かろうじて一時的にバランスを保っているようなものなのです。だからこそ、1文にこだわってください。そこに新しい読みの可能性が埋まっているかもしれないのです。

ところで、この小説は**読書感想文**でもよく取り上げられ、その内容は、お釈迦様批判とカンダタ擁護が大体のお決まりのようです。前者としては、お釈迦様の行為を独善的で冷酷と非難し、カンダタを弄るだけと厳しく糾弾する。後者としては、カンダタに感情移入をした上で、カンダタの免罪を主張する。この2点を柱にして感想文は出来上がり。確かにそう読めてしまいます。決して悪い読みではありません。でもそこで立ち止まってください。まずやるべきことは、自己の感想を裏づける根拠を探すこと。**どこに**書かれているかは当然ですが、**どのように**書かれているのかにもこだわってください。（例えば、登場人物の発言を間接話法で描いているか、直接話法で描いているか。地の文の文末表現が断定的であるか、推量表現になっているかなど）。次にやるべきことは、自己の感想と全く反対の立場に立って本文を読み返すこと。お釈迦様の行為は本当に独善的なのか。カンダタを免罪して本当にいいのか。自分の中に、**自分を批判するもう一人の自分**を作り出すのです。そうすると、最初

は読み飛ばしてしまった箇所につっかかったり、別な見方ができたりしてくるかもしれません。読書とは作品をきっかけとした自己との尽きることのない**対話**です。これは大変難しいことですが、読書の面白さでもあります。

さあ、もう一度**他者の目**で『蜘蛛の糸』を**読み返して**見ましょう。



目 編集後記

新型コロナウイルスの世界的な感染をきっかけに、世の中が変わろうとしています。政府の専門家会議から「新しい生活様式」として、7項目のポイントが提言されました。会社ではテレワーク、買い物は通販、店内では間隔をあけて並ぶなどが当たり前になりつつあります。この提言は感染の拡大防止の観点にたったのもですが、皆さんの**心の中の変化**ではどうでしょうか。

最近「**エッセンシャルワーカー**」という言葉を知りました。私達の**生活の基盤**を支えてくれている人たちです。例えば交通機関に勤務をしている方々。電車が遅れると条件反射的に不満の感情を抱いてしまいますが、普通に動いている時には取り立てて感謝の思いが湧き上がることはありません。これは私自身のことですが、皆さんはいかがでしょう。今回の状況をきっかけに、当たり前を支えてくれている人たちに対する見方を改めなくてはなりません。

当たり前は見え見にくいのです。よほど目を凝らし、心を研ぎ澄まさない。当たり前を見落とさない、さりげないことに立ち止まり思いを馳せる、そのためにはどうしたらよいのでしょうか。どなたか良い方法を思いついた人はいませんか。

哲学者**カント**は、時間に厳格で、毎日の習慣を格別大事にしたといえます。何時に散歩に出発し、何時にどこそこの角を曲がる。このような儀式とも思えるカントの行動は、もしかしたら心を研ぎ澄ますための方法だったのかもしれませんが。



【図書館の様子】

